

昨年度の調査研究の成果物

幼稚園施設部会

- 幼稚園施設整備指針（平成 22 年 2 月）

小中学校施設部会

- 小学校及び中学校施設整備指針（平成 22 年 3 月）

新学習環境ワーキンググループ

- 新たな学校施設づくりのアイデア集 ～充実した教育活動と豊かな学校生活のために～（平成 22 年 1 月）

環境を考慮した学校づくり検討部会

- すべての学校でエコスクールづくりを目指して ―既存学校施設のエコスクール化のための事例集―（平成 22 年 5 月）
- 学校における総合的な環境性能評価手法（平成 22 年 7 月公表予定）※現在作成中

幼稚園施設整備指針改訂の概要

- 幼稚園教育要領の改訂や社会状況の変化等に対応するため、平成21年6月から、文部科学省において有識者会議を開催*
- 取りまとめられた報告書に基づき「幼稚園施設整備指針」を改訂

* 会議名称:「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」(主査:杉山武彦 一橋大学学長)

改訂のポイント

◆ 幼稚園教育要領改訂への対応(平成21年度から実施)

多様な生活体験が可能となる環境の整備

- ・緑化スペースを園地全体に積極的かつ効果的に取り入れた施設計画
- ・変化に富み、遊びながら様々な活動を体験できる園舎・園庭

家庭や地域と連携した施設整備の充実

- ・地域の幼児教育のセンターとしての役割や機能を一層充実した施設計画
- ・長時間園内に滞在することに配慮した、預かり保育のための空間

▶ 個別相談に対応できる
小部屋の計画 など

▶ 家庭的な雰囲気の空間
を設ける など

幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続への対応

- ・近隣の小学校の児童等との交流に配慮した施設計画

▶ 遊戯室：保育室やホール等と連続して計画し、一体的な利用も行えるように考慮する など

◆ 社会状況の変化への対応

子どもの体力向上のための空間

- ・屋内外の空間的な連続性や回遊性に配慮した園庭の計画や遊具の配置

情報環境の充実

- ・必要に応じ、幼児の興味・関心を広げたり、校務情報化を推進したりするため、情報機器の導入が可能となる施設計画

特別支援教育の推進への配慮

- ・個々の障害の状態に応じた多様な活動に柔軟に対応でき、ゆとりをもってかかわることのできる施設計画

▶ 障害のある幼児が、落ち着きを取り戻すことのできるような小規模な空間を設ける など

環境面からの持続可能性への配慮

- ・環境負荷の低減や自然との共生等を考慮し、教材としての活用も念頭においた施設計画

小学校及び中学校施設整備指針改訂の概要

○小学校及び中学校学習指導要領の改訂や社会状況の変化等に対応するため、平成21年6月から文部科学省において有識者会議を開催*

○取りまとめられた報告書に基づき小学校及び中学校施設整備指針を改訂

* 会議名称：「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」（主査：杉山武彦 一橋大学長）

改訂のポイント

小学校及び中学校学習指導要領改訂への対応

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供

- ・学習内容・学習形態、発達段階などに応じた**多目的教室**の計画
- ・**外国語活動**における多様な学習活動に対応した空間の確保(小)
- ・**武道**の安全かつ円滑な実施のため、施設環境を一層充実(中)

・体を動かしながらの会話や歌といった活動等に対応 など

2. 理数教育環境の充実

- ・多様な実験器具や情報機器等が活用でき、演示実験のしやすさに配慮した**理科教室**の計画
- ・多様な教育方法に対応するため、「**理科教室**」と**図書室**や**視聴覚教室**等との**連携**に配慮した施設計画

・武道の運動種目(柔道、剣道、相撲等)にふさわしい内部仕上げ など

3. 情報環境の充実

- ・**教室**や**オープンスペース**など、**様々な場所(各室・空間)**において**コンピュータ等の情報機器が利用**できるよう情報環境の一層の充実

4. 家庭・地域と連携した施設の充実

- ・**ボランティア等の控室**など地域等との連携協力を推進するための関係諸室の充実

社会状況の変化への対応

1. 環境面からの持続可能性への配慮

- ・環境負荷の低減や自然との共生等を考慮し、**教材としての活用**や**温室効果ガス排出量削減**など施設環境の一層の充実

2. 屋内運動施設での快適な環境づくり

- ・**十分な通風、換気及び自然採光と適切な室温**を確保できる計画。**便所、更衣室、シャワー室**等の附属施設の適切な計画

『新たな学校施設づくりのアイデア集』の概要

文教施設企画部施設企画課

<趣旨>

今年度から全国の小・中学校において、新しい学習指導要領の一部が先行実施され、21世紀を生きる子どもたちのための学校教育が始められています。また、近年、学校についても環境配慮が求められるなど、学校を取り巻く社会状況が変化しています。

このような状況の中、学校施設の整備に当たっては、既成の学校施設の形態の枠にとらわれない、柔軟な発想が有効です。

そこで文部科学省では、これまでに整備された学校の中から、新しい工夫があり他の学校にも参考になるとと思われる施設的なアイデアについて取りまとめました。これを全てそのまま採用するというのではなく、各学校や地域の実情に応じた様々な工夫により、教育環境が向上することをねらいとしています。

<アイデア集の構成>

本アイデア集は、30のアイデアとそれらのアイデアを活用した10の改修事例で構成

- 第1章 はじめに
- 第2章 新たな学校づくりのアイデア例
 - 新しい教育への対応(確かな学力、豊かな心、健やかな体)
 - 今日的課題への対応(環境との関わり、地域との関わり)
- 第3章 改修による学校施設の再生の例

<第2章のアイデアの一例と読み方>

期待される効果:実現できる教育活動・方法を具体的に示しています。

アイデアの要点:空間の特徴・意義、また、導入による教育面の効果・意義を解説しています。

計画のポイント:アイデアを実現するための設計・計画上の留意点を具体的に示しています。

イラスト、写真等:空間のイメージを分かりやすく示しています。

補足説明:配慮したい補足事項や代替案を示しています。

9. 大階段が劇場に
～表現の場にもなる多目的なスペース～

◆◆◆アイデアの要点◆◆◆

- 階段状の空間を、発表や討論などの教育活動に活用できるよう計画するもの。
- 身近にある開放的な空間で、聴衆を前に自分の考えや作品について発表することで、説明し表現する力を育むことができる。

期待される効果

- **一体感・臨場感ある発表の場**
発表や討論の場としての開放感や臨場感を生み、各教科における発表や討論の場を確保し、活用することで表現する力を育むことができる。
- **子どもたちが憩う場所**
子どもたちが、憩をしながら休憩、交流することができる場となる。

計画のポイント

- **十分な広さ、幅を確保**
集まる人数に応じた十分な広さ、幅の確保とすることが必要。このための全体の中での階段の階高比率は高まる。
- **音のコントロール**
高い階段で発表する場合は、そこでの音が上下階にも伝わる。音調整や音響材の設置等への配慮や、発表の形態についての工夫が必要となる。
- **充実した表現活動を助ける設え**
表現活動を支えるための、例えば、展示用壁紙、移動式黒板、自然光を調整するカーテンなどの設えが考えられる。
- **学校全体の中での位置**
校舎内での配置を工夫することで、表現の場と学校内の様々な場所とが互いに活発な関係性ができる。

写真

- 写真1-1 階段状の空間での活動(藤原市立東山岡小学校)
- 写真2-2 階段での発表活動(神奈川県川崎市立はるひ野小学校)

補足説明

- **体質弱やランスペース**については、ステージなどを設けることで、より多くの発表を対応した教育発表の場を確保することができる。
- **天井**「5. 構内の開放性を高める」参照
- **外を多く見渡せる人**たちから、中で何をしているかが分かるようにすることで、他校との連携に資することにもなる。
- **効果的に利用するための注意点**
事前に、階段状の配置で行われる授業の内容を確認していただくことで、音が伝わるという課題に対応しやすくなる。

効果的に利用するための注意点:実施する際の課題とその対応策を示しています。

すべての学校でエコスクールづくりを目指して —既存学校施設のエコスクール化のための事例集—

- 低炭素社会の実現に向けた取組みをより一層推進することが必要
- すべての学校でのエコスクール化を目指し、既存学校施設の「エコスクールづくり」に積極的に取り組むことが重要
- このため、学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議の下に部会を設置し、本事例集を作成

I 現状と今日的課題 ～今、なぜ既存学校施設のエコスクール化なのか～

1 地球温暖化問題とこれまでの取組

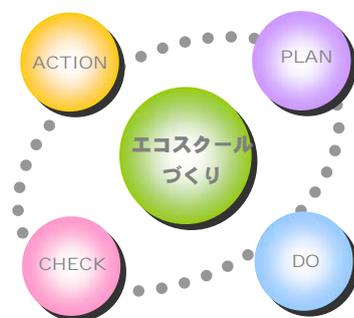
2 既存学校施設のエコスクール化の課題



II 既存学校施設のエコスクール化の進め方 ～何から始めたらよいか～

1 基本的な考え方

- 1 実態を把握し、効率的な施設運営を目指す
- 2 施設水準の確保と環境負荷低減の両立を目指す
- 3 地域の環境・エネルギー教育の拠点を目指す



2 エコスクール化の手順とポイント

1 準備段階

- ポイント1 既存データ活用による実態把握
- ポイント2 自治体の環境施策との連携

3 改修整備の検討・実施

- ポイント5 関係者が一緒に考える
- ポイント6 対策メニューを組み合わせ、効果を上げる

2 エコスクール化計画の策定

- ポイント3 ライフサイクルを通して環境負荷を抑える
- ポイント4 画一でなく、それぞれの学校に適した計画

4 整備後の環境・エネルギー教育での活用

- ポイント7 既存の教育活動につなげ、新たな負担なく環境教育に活かす

5 関係機関との連携・成果の普及

- ポイント8 取組の輪を広げる

III 取組事例 ～先進的な取組から学ぶ～

1 自治体におけるすべての学校のエコスクール化の取組

事例1 東京都杉並区

事例2 神奈川県藤沢市

2 既存学校施設のエコスクール化の取組

事例3 東京都荒川区立第七峡田小学校

事例4 岐阜県高山市立北小学校

事例5 エネルギー消費実態を把握しやすくし、効率的な施設運営を目指した例

事例6 施設水準の確保と環境負荷低減の両立を目指した例

事例7 地域の環境・エネルギー教育の拠点を目指した例



校庭の芝生化
(東京都杉並区立和泉小学校)

IV 参考資料

環境を考慮した学校づくり検討部会

伊香賀俊治(慶應義塾大学理工学部教授)

(検討部会特別協力者)

伊東 友忠(世田谷区教育委員会事務局施設課長)

海野 剛志(川崎市教育委員会教育環境整備推進室長)

押尾 和子(葛飾区立新宿小学校校長)

新保 幸一(国立教育政策研究所文教施設研究センター長)

小泉 治(株式会社日本設計プロジェクト統括本部部長)

村岡 泰孝(藤沢市教育委員会教育総務部担当部長)

小峯 裕己(千葉工業大学工学部教授)

島田 光正(東京都環境局都市地球環境部計画調整課長)

(以上10名、五十音順、敬称略)

○長澤 悟(東洋大学理工学部教授)

(○:部会長)